

中学校 外国語〔英語〕科
第2学年 第3学年
パフォーマンス評価の事例

コミュニケーション能力の
育成を目指して!



評価事例の作成に当たって

本年度、愛知県義務教育問題研究協議会専門部会では、「子供たちが意欲をもって学び続ける小中学校の評価の在り方」について協議を重ね、パフォーマンス評価の参考事例を作成しました。この評価事例は、中学2、3年生を対象とし、「話すこと（やり取り、発表）」「書くこと」の三つの領域で、1年間のまとめとなる学年末の時期に、生徒の力がどのくらい身に付いたのかを測るものです。

作成に当たり、生徒がパフォーマンス評価を行うことで自信を失うのではなく、「もっと英語を使いたい」「英語で伝えたい」という思いをもち、「積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育ててほしい」という願いを込めました。

各学校では、パフォーマンス評価を行う上で、実施内容や方法等、様々な課題があると思いますが、生徒の学習状況を多面的に捉える点からも、学校の実情に応じて本事例を御活用ください。

活用の仕方



- **目標**
「愛知県教育委員会版 CAN-DOリスト」（右ページ参照）をもとに設定しています。
- **具体的な生徒の姿**
「目標」をもとに、どのような力を付けたいのかを具体的に示しています。
- **テストの内容**
各テストにおける生徒のパフォーマンスの具体例を示しています。
- **指導のポイント**
テストを行う上での、事前指導や当日の手順、事後指導等のポイントをまとめています。各学校の実情に合わせて実施してください。
- ★ **評価のポイント**
三つの項目に沿って評価を行うようにしています。

Content

生徒が話したり、書いたりした本文の内容に関して評価します。

Fluency

「話す」領域では流ちょうさを、「書く」領域では英文の量をもとに評価します。

Attitude toward communication

理解されやすいように既習表現を工夫して用いているか、声の大きさや話すスピード等が適切か、また丁寧な文字等を書いているかを評価します。

評価は、各項目2段階（A、B）で行い、A、Bの評価の具体例を示しています。生徒の実態や指導の経緯を踏まえ、評価項目の内容をお考えいただけたいと思います。

- **パフォーマンステストまでに押さえておきたいこと**
パフォーマンステストを行うまでに、日々の授業の中でどのような力を付けていく必要があるのか、そのためにどのようなことをしておくかを示しています。
- **パフォーマンステストの運営に関して**
一斉に行うことが難しいパフォーマンスの評価方法についてのアイデアを示しています。
- ★ **パフォーマンステスト後のフィードバック例**
テスト実施後の生徒への具体的な助言例を示しています。「一年間でこんなことができるようになった」「来年はこれを頑張りたい」と、生徒が実感できるような励ましの声を掛けていただけたらと思います。
- **パフォーマンステスト作成上の意図及び工夫**
評価事例を作成した意図や工夫した点を示しています。

愛知県教育委員会版 CAN-DO リスト

中学校卒業時に目指す姿		<p>○ 初歩的な英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解することができる。</p> <p>○ 初歩的な英語を用いて、自分の伝えたいことを表現することができる。</p>			
領域	聞くこと	読むこと	話すこと		書くこと
			やり取り	発表	
中学1年生	<p>○ 挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができる。</p> <p>○ はっきりと話されれば、ごく短い会話など具体的に簡潔な話を聞いて、視覚情報や背景知識を活用しながら理解することができる。</p>	<p>○ 指示や伝言、手紙など具体的で簡潔な英文を読んで、視覚情報や背景知識を活用しながら、概要や要点を理解することができる。</p>	<p>○ 必要に応じて話し手に聞き返したり、相づちを打ったりすることができる。</p> <p>○ 聞き手に配慮しながら、自分のことや身近な話題について対話することができる。</p>	<p>○ 簡単な語句や文を用いて、伝えたい内容をおおむね話すことができる。</p>	<p>○ 自分のことや身近な話題について、語と語の区切り、つながりなどを意識し、伝えたい内容を簡単な語句や文を用いておおむね書くことができる。</p>
中学2年生	<p>○ 質問や依頼などへ適切に対応することができる。</p> <p>○ はっきりと話されれば、短い会話や説明など内容的にまとまりのある話を聞いて、視覚情報や背景知識を活用しながら理解することができる。</p>	<p>○ 短い物語や簡単な説明文など内容的にまとまりのある英文を読んで、視覚情報や背景知識を活用しながら、概要や要点を理解することができる。</p>	<p>○ 必要に応じて話し手に聞き返したり、つなぎ言葉を用いたりして対話を続けることができる。</p> <p>○ 聞き手に配慮しながら、身近で様々なテーマについて対話することができる。</p>	<p>○ 簡単な語句や文を用いて、自分の意見や理由を明確にしながらか伝えたい内容を話すことができる。</p>	<p>○ 身近で様々なテーマについて、文のつながりや構成などを意識し、簡単な語句や文を用いて自分の意見を書くことができる。</p>
中学3年生	<p>○ 日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができる。</p> <p>○ はっきりと話されれば、やや長い会話や説明など内容的にまとまりのある話を聞いて、背景知識を活用しながら、話し手の意図を理解することができる。</p>	<p>○ 物語や図やグラフの入った説明文など内容的にまとまりのある英文を読んで、背景知識を活用し、必要に応じて推測しながら、概要や要点、書き手の意図を理解することができる。</p>	<p>○ 必要に応じて話し手に聞き返したり意味を確認したりして、対話を続けることができる。</p> <p>○ 聞き手に配慮しながら、聞いたり読んだりした様々なテーマについて対話することができる。</p>	<p>○ 簡単な語句や文、適切なつなぎ言葉を用いて、賛否、理由、感想を明確にし、聞き手の理解を確認しながら自分の意見や主張を話すことができる。</p>	<p>○ 聞いたり読んだりした様々なテーマについて、読み手に配慮しながら、賛否や理由を添えた意見や感想を、簡単な語句や文を用いて書くことができる。</p>
参考	英検5級	初歩的な語句や定型表現を理解することができる。	アルファベットや符号が分かり、初歩的な語句や文を理解することができる。	初歩的な語句や定型表現を使うことができる。	アルファベット・符号や初歩的な単語を書くことができる。
	英検4級	簡単な文や指示を理解することができる。	簡単な文章や表示・掲示を理解することができる。	簡単な文を使って話したり、質問したりすることができる。	簡単な文やメモを書くことができる。
	英検3級	ゆっくり話してもらえば、身近なことに关する話や指示を理解することができる。	簡単な物語や身近なことに关する文章を理解することができる。	身近なことについて簡単なやり取りをしたり、自分のことについて述べたりすることができる。	自分のことについて簡単な文章を書くことができる。

目標

相手に尋ねたり、つなぎ言葉を用いたりして対話を続けることができる。

具体的な生徒の姿

目的の品物を手に入れるために、相手が理解しているかを把握しながら買物の対話を続けることができる。

テストの内容

おつかいメモに書いてある品物を、対話を通して手に入れる。

〈対話例〉

ALT : Hello. May I help you?

Student : Yes, please. I'm looking for a white T-shirt.

ALT : How about this one?

Student : Well, this size is good. But do you have a cheaper one?

ALT : All right. How about this one?

Student : Let's see... This is very good. I'll take it.



Item: a white T-shirt

Size:M

Cost:2,000 yen

指導のポイント



〔当日まで〕

- ・NEW HORIZON② Daily Scene7(pp.110 - 111)の導入時にパフォーマンステストの期日とテーマ、評価項目について予告しておく。
- ・対話が持続するよう、日頃からテーマを与えて、対話練習に取り組みせるとよい。

〔当日〕

- ・テストは別室で行う。対話の相手はALTかJTEとする。
- ・おつかいメモを読み、目的の品物をALT（又はJTE）とのやり取りで入手するよう伝える。
- ・待機する生徒には、同じようなトピックで書く活動を設定してもよい。

〔テスト後〕

- ・記録映像等を通してやり取りの様子をフィードバックし、どのような表現ができるようになればよいのかを具体的に助言することで、今後の学びへの意欲を高めるようにする。
- ・指導過程や評価方法は適切であったかを検討し、今後の改善につなげる。

評価のポイント



項目	A	B
Content	相手に尋ねながら正しい情報を伝えることができる。	正しい情報を相手に伝えることができる。
Fluency	つなぎ言葉を用いながら、流ちょうに対話を続けることができる。	時々詰まる場面があるが、適度なスピードで対話を続けることができる。
Attitude toward communication	相手が理解しているかを把握しながら、ジェスチャーや声の抑揚に工夫をして対話することができる。	ジェスチャーや声の大きさに工夫をしながら対話することができる。

パフォーマンステストまでに押さえておきたいこと

- ・ NEW HORIZON② Daily Scene 7(pp.110 - 111)のモデル対話を参考にして、相手が理解しているかを把握しながら、自然に対話をできるようにする。そのために、
 - やり取りのパターンを教科書準拠DVDなどで示す。
 - 対話が続くように、現在進行形や比較級、定型表現やつなぎ言葉等を押さえる。

パフォーマンステストの運営に関して

- ・ 別室で行うとよい。5人程度のグループを作り、自分以外のメンバーの良かった点、改善点を評価し合うと、互いの学びにつながる。
- ・ ALTに協力を依頼できるとよい。生徒が尋ねる表現を使う仕掛けを依頼する。
- ・ おつかいメモは複数のパターンが用意できるとよい。
- ・ 複数の教科担任が配属されている場合は、細かい評価規準について意思統一を図る。可能であれば、やり取りの様子を記録映像に残し、その映像を見ながら、生徒に必要な資質・能力についての改善を図る。

パフォーマンステスト後のフィードバック例

項目		具体的な助言例
Content	A	相手に尋ねながら、正しい情報を伝えることができましたね。尋ねる表現の幅を増やしていくと、更に伝えたいことを表現できるようになっていきます。
	B	正しい情報を相手に伝えることができましたね。よりスムーズに自分の伝えたいことを相手に理解してもらうために、尋ねる表現を更に活用できるようになるとよいです。
Fluency	A	つなぎ言葉を用いながら、流ちょうに対話を続けることができましたね。相手の言葉を繰り返したり、聞き返す言葉を増やしたりすることで、より自然に近い対話をすることができます。
	B	時々詰まる場面がありましたが、よく対話を続けることができましたね。今まで学習してきたつなぎ言葉を普段の授業で使うようにすると、より自然に対話ができるようになります。
Attitude toward communication	A	相手が理解しているか、表情を確認しながら、ジェスチャーや声の抑揚を工夫してやり取りをしていましたね。今後も相手とのよりよいコミュニケーションを図りながら対話ができるよう、表現の幅を広げましょう。
	B	ジェスチャーを使ったり、声の抑揚を工夫したりして対話をすることができました。相手が理解しているかを確認する言葉“OK?” “Do you understand?” などを使ってみると、相手も理解できているかどうかを確認できます。

パフォーマンステスト作成上の意図及び工夫

- ・ 海外旅行のだいご味は現地の人とのやり取りであり、土産など、目的の品物を、対話を通して得られることである。そのために、こういったやり取りのパフォーマンステストは必要であると考え。
- ・ 場面設定に少しでも臨場感をもたせ、文法的能力、談話能力、社会言語能力、方略的言語能力を養う手立てとしても活用できるとよい。

目標

簡単な語句や文を用いて、自分の意見や理由を明確にしながらか伝えたい内容を話すことができる。

具体的な生徒の姿

自分の住む町の魅力を、姉妹都市提携をしている学校の生徒にビデオメッセージで伝えることができる。

テストの内容 自分の住む町の魅力を紹介する。

〈スピーチ例〉

I live in Toyokawa in Aichi.

There is a famous temple in my city. It is Toyokawa Inari.

Many people come and pray on New Year's Day.

I go there with my family every year.

Toyokawa is also famous for Inari sushi.



指導のポイント



〔当日まで〕

- ・自分の住む町にある歴史的なもの、有名な食べ物、人気のスポットなどを教師が紹介する。
- ・来年度日本に来る姉妹都市の学生に自分の住む町のことを知ってもらうためにビデオメッセージを作ることを生徒に伝え、デモビデオを見せる。
- ・発表用のメモを用意しておく。

〔当日〕

- ・教室でパフォーマンステストの手順を説明する。
- ・テストを受ける生徒は、別室に移動をし、ALTに自分の発表を伝える。
※ALTからの簡単なアドバイスを受けられるとよい。
- ・定点ビデオカメラに、もう一度自分の発表をする。
- ・残った生徒は、教室で友人を相手に発表練習をする。

〔テスト後〕

- ・映像記録等を通して、フィードバックをし、今後の学習への意欲を高めるような声かけをする。
- ・優秀作品を教室で鑑賞する。また、優秀作品をまとめたものを姉妹都市の学校へ送る。

評価のポイント



項目	A	B
Content	事実だけでなく、自分の感想や考えを加えることができる。	事実を中心とした構成ができる。
Fluency	不自然な間がなく、相手に伝わる声の大きさと流ちょうに発表することができる。	時々、つまることはあるものの、適度な声とスピードで発表することができる。
Attitude toward communication	ビデオを見た人が自分の町の魅力を感じるような話し方をしたり、相手に問いかけたりすることができる。	写真や実物を見せながら英語で紹介することができる。

パフォーマンステストまでに押さえておきたいこと

- ・ NEW HORIZON②Presentation2 (pp.92 - 93)のモデル文を参考にして、自分の住んでいる町の魅力を伝えることができるようにする。そのために、
 - 自分が住んでいる町の魅力を調査しておく。
 - there 構文、動名詞、比較級などを使って、簡単なスピーチの練習を行っておく。

パフォーマンステストの運営に関して

- ・ 大規模校で他の先生の協力を仰ぐことができるのであれば、ビデオ撮影を依頼する。
- ・ 中規模校や小規模校では、ALTへの発表の後に、ALTに撮影をしてもらう。
- ・ JTEは他の生徒の指導を教室で行う。

パフォーマンステスト後のフィードバック例

項目		具体的な助言例
Content	A	事実だけでなく、自分の考えや相手を誘う文を加えることができました。自分の町のよさを更に見つけ、英語で伝えられるようになるといいですね。
	B	まとまりのあるスピーチを行うことができました。今後は、事実だけでなく、自分の思いや考えを加えるといいですね。
Fluency	A	不自然な間がなく、相手に伝わる声で流ちょうに発表することができました。今後は、より長い文でも詰まることなく発表することができるといいですね。
	B	時々詰まることのあるものの、適度な声とスピードで発表することができました。今後は、不自然な間がなく流ちょうに発表できるといいですね。
Attitude toward communication	A	ビデオを見た人が自分の町の魅力を感じるような話し方をしたり、相手に問いかけたりすることができました。ビデオを見ている人があなたの町のことをもっと知りたいと思うように、更に別の内容も伝えられるといいですね。
	B	写真や実物を示しながら発表することができました。今後は、聞き手に伝わりやすくするために絵や写真を指で示すなどの工夫ができるといいですね。

パフォーマンステスト作成上の意図及び工夫

- ・ 生徒は自分の住んでいる町の魅力を再発見し、それらを自分と関係する外国人（姉妹都市提携の学校の生徒）に伝えるという目標をもって学習を進める。生徒は、相手に伝えたいものとして食べ物や建築物、自然、伝統文化について、詳しく調べる。
- ・ 自分が調べることから、伝えたいという思いを強くもつことができる。紹介文を作るためには、事実だけでなく、その理由やそれに対する自分の考えも加えることで、充実した内容となる。
- ・ 相手に見せることを目的としたビデオ撮影という設定を加えることで、紹介する内容を、メモをもとに話し、聞いている人がいることを意識し、その人に伝わるように話すことへの工夫を考えるようにしたい。

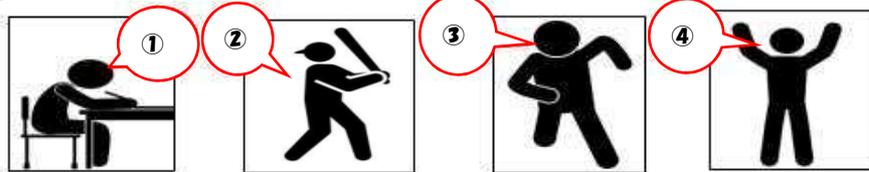
目標

文のつながりや構成などを意識し、簡単な語句や文を用いて物語を書くことができる。

具体的な生徒の姿

四つのイラストとの整合性や話の連続性を意識して4コマ漫画のせりふを考え、物語を書くことができる。

テストの内容 次のイラストの吹き出しに英文を記入し、4コマ漫画を完成する。(イラストの順番は変えてもよい)



〈作文例〉

- ① I went to bed late last night. So I'm sleepy now.
- ② I want to be a famous baseball player like Ichiro. I will lead a team to the first place in the WBC in the future. Well, today I have to go home early, because I want to watch a game between the Giants and the Tigers on TV.
- ③ I'm good at running. Hurry up! Hurry up!
- ④ I'm in time. But I forgot my school bag. Oh, my god!

指導のポイント



【当日まで】 (パフォーマンステストまでの指導) <①～③は授業の導入時などを利用して段階的に実施する。>

- ①イラストのみの4コマ漫画に、適する英文を選ばせ、「オチ」を楽しんで読解できるようにする。
- ②4コマ漫画の1コマのせりふを空欄にし、話の流れやイラストとの整合性を意識しながら英文を書くようにする。
- ③最初の1コマだけの英文を与え、話の流れを意識させ、残りのコマに英文を書くようにする。
- ※②、③では、グループごとに相違点や類似点を話し合う。必要に応じて名せりふ賞を取り入れる。
- ※各題材を選ぶ際には、漫画の内容が発達段階に合うかについて留意する必要がある。

【当日】

- ・評価のポイント及びパフォーマンステストの手順を紹介する。(イラストの順番は変えてもよい)
- ・各コマの英文は2文以上になってもかまわないものとする。(必ずしもせりふでなくてもよい)
- ・時間を設定し(20分)、テストを開始する。
- ・辞書や教科書の使用は認めない。

【テスト後】

- ・書いた内容について発表したり、学習した表現について振り返らせたりしながら、どのように書けばよいのかを具体的に助言することで、次の学びへの意欲を高めるようにする。
- ・互いの4コマ漫画にタイトルをつける活動をすることで、自分の書いた4コマ漫画が読み手にどのように伝わったのかを知る一つの手段となるので、必要に応じて行ってもよい。

評価のポイント



項目	A	B
Content	話の流れを意識し、4コマ漫画としてまとまりのある内容を書くことができる。	一貫性に欠ける部分がややあるが、4コマ漫画として成り立つ文を書くことができる。
Fluency	既習の文法や語彙を多く活用し、イラストに合った文章を自然な流れで書くことができる。	既習の文法や語彙を活用し、イラストに合った文章を書くことができる。
Attitude toward communication	知っている単語や表現を使って、読み手を意識して書くことができる。	簡単な単語や表現を使って、書くことができる。

パフォーマンステストまでに押さえておきたいこと

- ・ 2年生で身に付けた言語材料を活用して文を作ることができるようにする。そのために、
 - 話の流れを意識した文章の書き方を押さえておく。
 - 過去形、未来形、接続詞、比較級等に習熟しておく。

パフォーマンステストの運営に関して

- ・ 学年で統一して実施することが望ましい。(発達段階に応じたイラストを使用するため)
- ・ 評価者が測りたい資質・能力を意図的に使用させるようなイラストが望ましい。
- ・ 4コマ漫画のイラストは、生徒が描いたもの、写真、広告の切り抜きなど、様々なものを使用することができる。(テスト当日は新しいイラストを使用する)
- ・ 単元で学習した表現について振り返らせたり、コメント等を伝えたりするとよい。
- ・ 優秀作品を校内に掲示し、全校に活動内容を紹介することで、多くの先生からコメントをもらえ、生徒へのフィードバックに役立たせることができる。

パフォーマンステスト後のフィードバック例

項目		具体的な助言例
Content	A	イラストの内容について、必要な情報を表すために適切な文と語句を文章に入れることで、今後も相手を楽しませることができるようにしましょう。
	B	主語を「I」だけでなく、その他のものを使用することで物語の幅を広げることができました。次年度は更に多くの文法を学習するので、より面白い4コマ漫画を作ることができるようになります。今後も相手を楽しませることができるようにしましょう。
Fluency	A	話の流れがスムーズで、話し手をわくわくさせる物語を書くことができました。次年度は更に多くの文法を学習するので、より面白い4コマ漫画を作ることができるようになります。今後もたくさんの表現法を身に付けていきましょう。
	B	一枚一枚のイラストに対する文章はよく書きました。イラストの連続性を意識すると、読者がより楽しめる作品になると思います。また、起承転結を意識すると全体のまとまりを意識した文章構成ができます。
Attitude toward communication	A	時制に気をつけた文章を書くことで、いつの出来事なのか読み手に分かりやすくなりました。今後は、現在完了形という用法も学習します。使いこなせるようになると、あなたは時制マスターです。
	B	イラストの様子が読者に伝わる文章を書くことができました。名詞、動詞、形容詞などを意識して、語順を正しく書くことで、読み手にとって読みやすい文章へとつながります。

パフォーマンステスト作成上の意図及び工夫

- ・ 2年生時に学習した「過去形、未来形、助動詞、接続詞、比較表現」などを活用することで、幅広い表現が可能であることを生徒に実感させる効果が期待できると考えた。また、今後学習する「受け身、現在完了、関係代名詞」などを使用すると、より多くの表現が可能となるので、その期待や意欲を次年度の学習に抱かせたい。
- ・ イラストにせりふを記入する活動に慣れると、場面を想定して英文を考えるようになるという長所がある。さらに、4コマ漫画を扱うことで話の連続性を意識するようになり、教科書の例文などで突然出された文章に対しても、その前後の内容を推測するようになるという利点が期待できる。
- ・ このテストは、登場人物等に自分を投影することで、自己表現が難しい生徒にも抵抗感を減らすよい手立てになると考える。

目標

必要に応じて話し手に聞き返したり意味を確認したりして対話を続けることができる。

具体的な生徒の姿

自分の好きな有名人の写真を見せて、その人物についての相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、対話を継続することができる。

テストの内容 有名人の写真を見せ、その人物について対話する。

〈対話例〉

Student : Do you know who she is? (写真を見せて)

ALT : I don't know. Is she a sport player?

Student : Yes. Her name is ○○. She's a professional soccer player who won the World Cup as a member of Nadeshiko Japan.

ALT : Oh, I see. Is she playing soccer now?

Student : Yes. She's now playing in a foreign country.

ALT : Do you play soccer, too?

Student : Yes, I love playing soccer. Who is your favorite player?

ALT : My favorite player is ...



指導のポイント



【当日まで】

- ・生徒に好きな有名人の写真を1枚用意するように伝え、その人物について簡単な紹介文を考える時間を設定する。パフォーマンステストの2週間ほど前から、授業の中で対話の時間を確保し、ペアを変えながら、その写真の人物について対話をする活動を継続的に行う。
- ・ALTとJTEでモデル対話を見せるとともに、テストの手順と評価のポイントを説明する。

【当日】

- ・テストを受ける生徒は別室に移動し、ALT又はJTEと対話をする。
- ・待っている生徒には、同じようなトピックで書く活動を設定してもよい。
- ・全員が終わった段階で、前回のパフォーマンステストから伸びてきている点を中心に講評をする。

【テスト後】

- ・記録映像等を通して対話の様子をフィードバックしたり、テスト後に生徒自身が使用した英語について振り返り、場面に応じた適切な表現方法を確認する機会を与えたりする。
- ・指導過程や評価方法は適切であったかを検討し、今後の改善につなげる。

評価のポイント



項目	A	B
Content	自分の好きな有名人についての質問に、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりすることができる。	自分の好きな有名人についての質問に答えたり、質問をしたりすることができる。
Fluency	必要に応じて話し手に聞き返したり意味を確認したりして対話を続けることができる。	時々詰まることはあるものの、対話を続けることができる。
Attitude toward communication	スピードやジェスチャーなどを工夫して、聞き手が分かりやすいように対話することができる。	視線や抑揚に気をつけながら、はっきりと聞こえる声で対話することができる。

パフォーマンステストまでに押さえておきたいこと

- ・自分の好きな有名人を紹介したり、その有名人について友達やALTと対話をしたりすることができるようにする。そのために、
 - 有名人を紹介する文を考える時間を事前に設定するとともに、対話を継続・発展させるために必要な表現（聞き返したり意味を確認したりする表現など）を押さえておく。
 - 間接疑問文や名詞の後置修飾（前置詞句、現在分詞、過去分詞、関係代名詞、接触節）を習熟しておく。

パフォーマンステストの運営に関して

- ・ALTとのTTで行う際は、一人が別室でテストの評価をし、もう一人が教室でその他の生徒の指導を行うことが多いが、他の教員の協力が得られれば、ALTと対話する生徒の様子をJTEが評価をしたり、評価規準のもと複数の教員で評価を行ったりすることもできる。細かな評価規準については、教科部会等で意思統一を図る。
- ・小規模校では、対話の様子を記録映像に残し、その映像を見ながら評価をするとよい。

パフォーマンステスト後のフィードバック例

項目		具体的な助言例
Content	A	相手からの質問に対し適切に応答したり、関連する質問をしたりして対話することができました。質問の答えに1文付け加えていたところがとてもよかったです。さらに、自分の興味・関心のある事柄に関する語彙や表現を増やしていくと、表現の幅が広がります。
	B	相手からの質問に対し上手に受け答えをすることができました。さらには、“What kind of ○○ do you like?”や“Who’s your favorite ○○?”などを使って関連した質問をすると、より対話が発展していきます。
Fluency	A	必要に応じて聞き返したり意味を確認したりしてスムーズに対話を続けることができました。今後もいろいろな友達との対話を通して、対話をより継続したり、発展させたりする表現を身に付けていきましょう。
	B	時々詰まることはありましたが、対話を続けることができました。相手の言っていることが分からないときは“Pardon?”と聞き返したり、“You mean..., right?”と、意味の確認をしたりするとよいです。
Attitude toward communication	A	聞き手が分かりやすいように、話すスピードやジェスチャーなどを工夫して、対話することができました。相手がよく理解していないときに別の表現で言い換えていたところがすばらしかったです。
	B	視線や抑揚に気を付けながら、はっきりと相手に聞こえる声で対話ことができました。相手がよく分かっていない場合は、ゆっくりと繰り返したり、ジェスチャーを使ったりするとよいです。

パフォーマンステスト作成上の意図及び工夫

- ・その場で考えて質問をしたり、意見を交換したりして対話を継続・発展させていくことは、多くの生徒にとって難しい。そのため、事前に自分の好きな有名人について簡単な紹介文を作る時間を確保し、それをもとにして対話する活動につなげていく。
- ・対話をする際は、ペアを変えながら少しずつ対話時間を長くしていくことで、対話の流れに応じて関連する質問をしたり、聞き返したり意味を確認したりするなど対話を継続・発展させる表現を身に付けるようにしていきたい。

目標

理由や感想を述べる表現を用いながら、自分の主張等を話すことができる。

具体的な
生徒の姿

中学校生活を振り返って、これまで取り組んできたこと、これからしたいことについて、感想等を交えながら、教師や他の生徒に分かりやすいスピーチをすることができる。

テストの内容 中学校生活で取り組んできたこと、今後の抱負等について、クラス全体の場で発表する。

〈スピーチ例〉

I'm going to talk about my school life and future.

I've played basketball since I entered junior high school. We practiced hard every day because we wanted to win the city championship.

Finally, we could win the city championship. I was really happy when we won it.

I'm going to keep playing basketball at high school. I'm going to practice harder and I want to be a professional basketball player in the future.

指導のポイント



〔当日まで〕

- ・ NEW HORIZON③ Presentation 3 (pp.96・97) の導入時に、中学校生活を振り返って、これまで取り組んできたこと、これからしたいことについて発表することを告げる。

〔当日〕

- ・ 教室でパフォーマンステストの手順を説明する。
- ・ 教室で一人ずつスピーチをする。中学校3年生最終の Speaking のパフォーマンステストであるため、可能な限りクラス全体の場でスピーチを行わせたい。(JTE又はALTが評価)
- ・ 全員が終わった段階で、教室でJTE又はALTが講評をする。

〔テスト後〕

- ・ 記録映像等を通して発表の内容をフィードバックし、どのような表現ができればよいのかを具体的に助言することで、今後の学びへの意欲を高めるようにする。
- ・ 指導過程や評価方法は適切であったかを検討し、今後の改善につなげる。

評価のポイント



項目	A	B
Content	スピーチの構成にまとまりがあり、理由や感想をしっかりと述べることができる。	スピーチの構成にまとまりがある。
Fluency	不自然な間がなく、流ちょうに発表することができる。	時々詰まりはあるものの、適度なスピードで発表することができる。
Attitude toward communication	ジェスチャーや声のトーンなどに工夫をしながら、メモに頼ることなく、聞き手が分かりやすいように発表することができる。	原稿に余り頼ることなく、はっきりと大きな声で発表することができる。

パフォーマンステストまでに押さえておきたいこと

- ・ NEW HORIZON③ Presentation 3 (pp.96 - 97) のモデル文を参考にして、これまで取り組んできたこと、これからしたいことについて、感想等を交えながら、分かりやすいスピーチをすることができるようにする。そのために、
 - スピーチの型（主張→説明→まとめ等の型）を確認し、現在完了形・未来形等を押さえておく。ただ単にメモを読み上げるのではなく、聞き手を意識しながら、身振り手振りを交えてスピーチを行えるようにしておく。

パフォーマンステストの運営に関して

- ・ A L Tにも協力を依頼し、評価してもらう。
- ・ 大規模校で同学年に複数の教師が授業に入っている場合は、細かな評価規準について、教科部会等で意思統一を図る。また、スピーチの様子を記録映像に残し、その映像を見ながら同学年の英語科の担当教員同士で評価し合う。
- ・ 小規模校であれば、A L TとJ T Eの二人のみで評価する。また、スピーチの様子を記録映像に残しておく。
- ・ 各学級でのテスト終了後に、各学級から一人ずつ選抜し、学年集会でスピーチ発表を行うなど、学年で取り組むことも考えられる。

パフォーマンステスト後のフィードバック例

項目		具体的な助言例
Content	A	理由や感想をしっかりと述べながら、まとまりのあるスピーチを行うことができました。より多くの表現を身に付けることで、更に説得力のあるスピーチになると思います。
	B	まとまりのあるスピーチを行うことができました。理由や感想を述べる表現が少し曖昧などところがありましたが、現在や過去などの時制を意識すると更によりスピーチになると思います。
Fluency	A	全体的に流れるような速さで発表することができ、聞き手に分かりやすいスピーチでした。今後は、更に長い文でも詰まることなく発表できるといいと思います。
	B	時々詰まることがあるものの、全体的に適度な速さで発表することができました。今後は、更に練習を積み重ねて、詰まることなく発表できるといいと思います。
Attitude toward communication	A	ジェスチャーを交えたり、声の抑揚を工夫したりしながら、発表することができました。今後は、原稿に頼ることを減らし、聞き手をしっかりと見ながら発表すると更によりスピーチになると思います。
	B	聞き手が分かりやすいように、大きな声で発表することができました。今後は、余り原稿に頼らず、聞き手をしっかりと見て、ジェスチャーを交えながら発表すると、更によりスピーチになると思います。

パフォーマンステスト作成上の意図及び工夫

- ・ NEW HORIZON③ Presentation 3 (pp.96 - 97) で、これまでの中学校生活を振り返って、スピーチを行う場面が設定されている。中学校生活の締めくくりとして、これまで取り組んできたこと、これからしたいことについて、理由や感想を交えながら、自分の意見や主張をみんなの前で堂々と発表する機会をもちたい。
- ・ クラスメイトの発表を聞くことで、これまでの中学校生活を振り返る時間にしたい。

目標

与えられたテーマについて、読み手に配慮しながら、理由を添えた意見や感想を、簡単な語句や文を用いて書くことができる。

具体的な生徒の姿

自分の過去、現在、未来についての出来事や、そのときの思いを感想とともに述べながら、読み手が理解しやすいように語句や文を工夫したポスターを作成することができる。

テストの内容 自分の過去、現在、未来をまとめた Life Story のポスターを作成する。(写真等を加えてよい)

〈作文例〉

Past : I was born in Osaka on February 6, 2003. I moved to Aichi when I was 9. At first, I could not understand some words spoken here because they were quite different from the words spoken in Osaka. That was amazing.

Present: I like music. I have played the drums since I was 10 years old. Now I practice the guitar. Playing the musical instruments is fun for me. I am also interested in Japanese and English poems. I want to read more.

Future : I have a lot of dreams for my future, but now I love music, so I want to be a musician. When I become a college student, I will make a band. I will write music and want to play it with members.

指導のポイント



【当日まで】

- ・ Life Story のポスターを作成することを告げ、「思い出に残っている体験とそのときに感じたこと」「今の自分の趣味や特技」「10年後や20年後の自分の姿」について考えておくよう指示する。
- ・ 教師の見本を示し、タイトル、文と写真や絵のレイアウト、色遣いを工夫し、既習語彙や既習表現を用いながら読み手が理解しやすいように作成するよう指導する。
- ・ 写真（写真のコピー）やカット絵を持ってきてよいことを伝える。

【当日】

- ・ 八つ切りの画用紙を配付し、使い方の説明をする（縦にして上から「過去」「現在」「未来」）。

【テスト後】

- ・ グループでポスターを回し読みし、教師と同じ評価項目で生徒同士相互評価をさせる。各項目については、生徒の今後の学びへの意欲を高めさせるために、付箋に「よかったところ」や「よりよくするためのアドバイス」を書かせて、ポスターに貼らせるようにする。

評価のポイント



項目	A	B
Content	自分の過去、現在、未来についての出来事や、そのときの自分の考え、意見等を、感想とともに述べるができる。	自分の過去、現在、未来についての出来事や、そのときの自分の考え、意見等を述べることができる。
Fluency	出来事や事実に加え、それぞれについて説明する文を全てに書くことができる。	出来事や事実について、それぞれ書くことができる。
Attitude toward communication	既習の語彙や表現を用い、色遣いや丁寧な記述等に配慮して書くことができる。	既習の語彙や表現を用いて書くことができている。又は、色遣いや丁寧な記述等に配慮して書くことができる。

パフォーマンステストまでに押さえておきたいこと

- ・自分の過去の出来事やそのときの感想、現在の自分に関する事実や思い、未来の自分に関する考えや希望について、既習語彙や既習表現を用いながら、読み手が理解しやすいように書くことができるようにする。そのために、
 - 日頃から自分自身に関する事柄について表現できるようにしておく。
主題 (Topic sentence) に加えて、説明や意見を述べる文を付け加えることができるようにしておく。
 - 時制に関する表現、接続詞、感想を表す形容詞等に習熟しておく。

パフォーマンステストの運営に関して

- ・ポスターの作成であるため、学校規模等により実施方法を変更する必要はない。
- ・辞書を用いてもよいこととし、友達に質問をしたり意見を求めたりすることはしないように指示する。
- ・同学年を複数の教師で担当している場合は、評価規準について教科部会等で意思統一を図る。

パフォーマンステスト後のフィードバック例

項目		具体的な助言例
Content	A	出来事や事実それぞれ自分の考えや感想が述べられていて、〇〇さんの気持ちがよく伝わってきました。今後も、今回のように作文の内容を豊かにするために、出来事や事実に対して考えや感想を述べるようにしていきましょう。
	B	英語で、自分の人生について書くことができましたね。過去の出来事について、そのときどう感じたのか知りたいなと思いました。事実に対して感じたことを具体的に書くようにすると、〇〇さんの気持ちがもっとよく伝わるようになりますよ。
Fluency	A	出来事や事実について、たくさんの言葉で一つ一つ丁寧に説明をしていましたね。〇〇さんのことがよく分かり、読んでいて思わず引き込まれました。これからも、一つの事実に対して、説明に加えて考えや気持ちを伝えていきましょう。
	B	英語で、自分の人生について書くことができましたね。現在の趣味について、週に何回取り組んでいるのか知りたいなと思いました。一つ一つの出来事や事実について、できる限りたくさん具体的な説明を加えるようにすると、〇〇さんのことをもっと分かってもらえるようになりますよ。
Attitude toward communication	A	丁寧な字でとても読みやすく書かれていました。また、読み手が理解しやすいことを優先し、伝えたいことを既習の語彙や表現を工夫して使っていた様子はすばらしいものでした。今後も、この言い換えの手法を上手に活用していきましょう。
	B	英語で、自分の人生について書くことができましたね。自分の伝えたいことを表現するために辞書で調べて書いたところがありましたね。辞書で調べた表現は難しくて読み手が理解できないこともあります。まずは、これまでに学習した表現で言い換えることができないかを考えてみるとよいです。

パフォーマンステスト作成上の意図及び工夫

- ・小中学校における英語学習の復習をする機会をもちたいと考えた。また、義務教育最後の場面であることも踏まえ、キャリア教育において日本語で書かせることが多い自分史やライフプランを英語で書かせたいと考えた。
- ・この活動を通して、生徒に英語で自分のことが表現できるようになったことを、喜びとともに実感させたい。

【編集後記】

本リーフレットは、新学習指導要領を踏まえた外国語活動、外国語科の実施に向けて、実践や研修等で先生方に活用していただけるように作成したものです。特に、英語の指導経験が少ない先生方にも活用していただくために、具体的かつ実践的な内容となるよう努めました。

また、リーフレットには、児童生徒が「分かる」「できる」を実感し、意欲的に学ぶ中で、英語によるコミュニケーション能力を身に付けるとともに、他者を尊重し理解しながら、世界に視野を広げて活躍できる人間に育ててほしいという願いが込められています。

リーフレットの編集に当たっては、本協議会の専門部会委員の皆様にご尽力いただくとともに、県内各地の英語教育の様々な取組を参考にさせていただきました。御協力いただいた全ての皆様に心より感謝申し上げます。

平成28・29年度 愛知県義務教育問題研究協議会

(順不同・敬称略)

<平成28年度 研究協議会委員>

- | | |
|-----|-----------------------------------|
| 会長 | 野田 敦敬 (愛知教育大学副学長) |
| 副会長 | 川合 基弘 (知立市教育委員会教育長) |
| 委員 | 樋口 貴子 ((株)キャリアデザイン代表取締役社長) |
| | 太田 光春 (名古屋外国語大学教授) |
| | 都築 楓 (愛知県地域婦人団体連絡協議会副会長) |
| | 杉浦 隆 (NHK名古屋放送局編成部アナウンス専任部長) |
| | 加藤 宣和 (常滑市教育委員会教育長) |
| | 山田 茂美 (江南市教育委員会委員) |
| | 平野香代子 (大治町教育委員会教育長) |
| | 金田 慎也 (名古屋市教育委員会学校教育部長) |
| | 加藤 千博 (東海市立加木屋小学校長) |
| | 伊藤 久仁 (名古屋市立高蔵小学校長) |
| | 杉山美津夫 (名古屋市立白鳥小学校教諭) |
| | 豊嶋久美子 (名古屋市立飯田小学校教諭) |
| | 三浦 那智 (愛知県小中学校PTA連絡協議会 平成27年度会長) |
| | 草野由美子 (愛知県小中学校PTA連絡協議会 平成27年度副会長) |
| | 平岡 将暢 (愛知県小中学校PTA連絡協議会 平成28年度会長) |
| | 近藤 順子 (愛知県小中学校PTA連絡協議会 平成28年度副会長) |
| | 平井 克明 (愛知県総合教育センター研修部長) |

＜平成28年度 専門部会委員＞

部会長 太田 光春 (名古屋外国語大学教授)
委員 池田 周 (愛知県立大学准教授)
松井 孝彦 (愛知教育大学教職大学院講師)
片桐 常夫 (豊田市立浄水中学校長)
鵜居 青江 (一宮市立今伊勢西小学校教諭)
鈴木麻衣子 (豊橋市立栄小学校教諭)
都筑 香理 (岡崎市立美川中学校教諭)
橋本 義武 (半田市立半田中学校教諭)
白井 貴也 (豊川市立音羽中学校教諭)
久保田香直 (安城市立安城西中学校教諭)
武田 多聞 (蟹江町立蟹江中学校教諭)
稲葉 吉則 (岩倉市立岩倉中学校教諭)
小川 純子 (愛知県総合教育センター研究指導主事)

＜平成29年度 研究協議会委員＞

会長 野田 敦敬 (愛知教育大学副学長)
副会長 太田 光春 (名古屋外国語大学教授)
委員 樋口 貴子 ((株)キャリアデザイン代表取締役社長)
細谷 澄子 (愛知県地域婦人団体連絡協議会副会長)
前原 信也 (NHK名古屋放送局編成部長)
松本 友之 (NHK名古屋放送局編成部長)
川合 基弘 (知立市教育委員会教育長)
加来 正晴 (半田市教育委員会教育長)
山田 茂美 (江南市教育委員会教育長職務代理者)
恒川 涉 (東浦町教育委員会教育長)
相川 保敏 (名古屋市教育委員会学校教育部長)
稲垣 寿 (西尾市立西尾小学校長)
大島 純子 (一宮市立末広小学校長)
森田 慎也 (半田市立乙川中学校教諭)
辻 麻希 (津島市立北小学校教諭)
平岡 将暢 (愛知県小中学校PTA連絡協議会 平成28年度会長)
近藤 順子 (愛知県小中学校PTA連絡協議会 平成28年度副会長)
伊藤 彰康 (愛知県小中学校PTA連絡協議会 平成29年度会長)
大木 美衣 (愛知県小中学校PTA連絡協議会 平成29年度副会長)
加木屋直規 (愛知県総合教育センター研修部長)

＜平成29年度 専門部会委員＞

部会長 太田 光春 (名古屋外国語大学教授)
委員 池田 周 (愛知県立大学准教授)
松井 孝彦 (愛知教育大学教職大学院講師)
鵜居 青江 (一宮市立今伊勢西小学校教諭)
橋本 義武 (半田市立横川小学校教諭)
石黒 都 (豊橋市立牟呂小学校教諭)
都筑 香理 (岡崎市立美川中学校教諭)

白井 貴也 (豊川市立音羽中学校教諭)
久保田香直 (安城市立安城西中学校教諭)
武田 多聞 (蟹江町立蟹江中学校教諭)
稲葉 吉則 (岩倉市立岩倉中学校教諭)
田口 英樹 (愛知県総合教育センター研究指導主事)

<平成28年度 事務局>

荻原 哲哉 (愛知県教育委員会学習教育部長)
柵木 智幸 (愛知県教育委員会義務教育課長)
浅野 薫史 (愛知県教育委員会義務教育課主幹)
太田佳永子 (愛知県教育委員会義務教育課課長補佐)
鈴木 佳樹 (愛知県教育委員会義務教育課課長補佐)
伊藤 孝明 (愛知県教育委員会義務教育課主査)
兼子 明 (愛知県教育委員会義務教育課主席指導主事)
松浦 恵美 (愛知県教育委員会義務教育課指導主事)

<平成29年度 事務局>

荻原 哲哉 (愛知県教育委員会学習教育部長)
柵木 智幸 (愛知県教育委員会義務教育課長)
伊藤 克仁 (愛知県教育委員会義務教育課主幹)
石橋 進 (愛知県教育委員会義務教育課課長補佐)
伊藤 孝明 (愛知県教育委員会義務教育課課長補佐)
兼子 明 (愛知県教育委員会義務教育課主査)
加藤 広也 (愛知県教育委員会義務教育課主席指導主事)
宮本奈津子 (愛知県教育委員会義務教育課指導主事)

愛知県義務教育問題研究協議会

「グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方」リーフレット

発行日 平成30年3月31日
制作 愛知県教育委員会 義務教育課
〒460-8534 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 052-961-2111 (県庁代表)

義務教育課 Web ページ

<http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/gimukyoiku/index.html>

に掲載してあります。